

5.2.5 工芸作物

5.2.5.1 茶

適応策の種類を整理結果を図 5.2-107～図 5.2-112 に示します。適応策の詳細な情報については表 5.2-107～表 5.2-112 を参照下さい。



図 5.2-107 適応策の種類を整理_茶 (気温・収量)
(各適応策の詳細情報は表 5.2-107 を参照下さい)



図 5.2-108 適応策の種類を整理_茶 (気温・病害虫)
(各適応策の詳細情報は表 5.2-108 を参照下さい)



図 5.2-109 適応策の種類を整理_茶 (気温(低温)・収量)
(各適応策の詳細情報は表 5.2-109 を参照下さい)



図 5.2-110 適応策の種類を整理_茶 (気温(低温)・品質)
(各適応策の詳細情報は表 5.2-110 を参照下さい)



図 5.2-111 適応策の種類を整理_茶 (降水・収量)
(各適応策の詳細情報は表 5.2-111 を参照下さい)

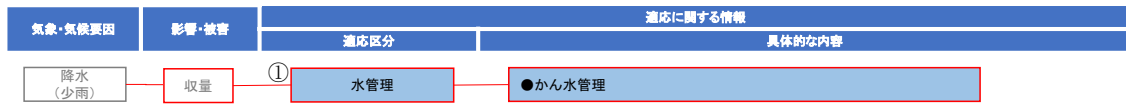


図 5.2-112 適応策の種類の種類_茶（降水(少雨)・収量）
 （各適応策の詳細情報は表 5.2-112 を参照下さい）

図 5.2-107 で示した適応策の種類の整理結果にもとづき、該当する具体的な対策の概要等に関する情報を表 5.2-107 に示します。

表 5.2-107 適応策の種類の整理結果にもとづく具体的な対策の概要_茶（気温・収量）

気象要因	影響・被害①	影響・被害②	適応区分	具体的な内容	具体的な対策名	概要	課題	実施場所	出典
気温	収量	干ばつ (葉焼け (日焼け))	①土壌・施肥管理	肥培管理	茶園の「点滴かん水同時施肥法」による施肥削減とかん水効果	<p>【概要】 点滴かん水施設を利用した液肥施用と夏期干ばつ時のかん水について試験を行った。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慣行施肥区では土壌乾燥時 (pF=2.3~2.9) に 2t/10a のかん水を行うことで、pF 値の低下がみられた。 ・点滴施肥区では、pF 値は慣行施肥区より高めに推移した。これは点滴施肥区のおね間土壌の水分保持能が低下していたことに起因すると考えられた。 ・点滴施肥区および慣行施肥+かん水区は慣行区と比べて処理当年の秋芽収量に差はなかったが、翌年の一番茶収量は約 10%増収した。 ・慣行施肥栽培区と点滴施肥栽培区の一歩茶荒茶品質について、品質の低下も認められなかった。 		佐賀県	農業温暖化ネット (掲載:2014)
気温	収量	生育抑制	②水管理	かん水管理	かん水の実施	<p>【効果に関する評価】 夏季の高温干ばつ時にかん水することで三歩茶芽の生育抑制を軽減。</p>	県茶園面積 17,400ha の内、給水栓整備済茶園は約 3,200ha (18%)、スプリンクラー設置済茶園は約 630ha (4%) であり、その他茶園は手かん水となるため、かん水作業の省力化が課題	静岡県	平成 29 年地球温暖化影響調査レポート
気温	収量	干ばつ (葉焼け (日焼け))	②水管理	かん水管理	茶園の「点滴かん水同時施肥法」による施肥削減とかん水効果	<p>【概要】 点滴かん水施設を利用した液肥施用と夏期干ばつ時のかん水について試験を行った。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慣行施肥区では土壌乾燥時 (pF=2.3~2.9) に 2t/10a のかん水を行うことで、pF 値の低下がみられた。 ・点滴施肥区では、pF 値は慣行施肥区より高めに推移した。これは点滴施肥区のおね間土壌の水分保持能が低下していたことに起因すると考えられた。 ・点滴施肥区および慣行施肥+かん水区は慣行区と比べて処理当年の秋芽収量に差はなかったが、翌年の一番茶収量は約 10%増収した。 ・慣行施肥栽培区と点滴施肥栽培区の一歩茶荒茶品質について、品質の低下も認められなかった。 		佐賀県	農業温暖化ネット (掲載:2014)

図 5.2-108 で示した適応策の種類の整理結果にもとづき、該当する具体的な対策の概要等に関する情報を表 5.2-108 に示します。

表 5.2-108 適応策の種類の整理結果にもとづく具体的な対策の概要_茶（気温・病害虫）

気象要因	影響・被害①	影響・被害②	適応区分	具体的な内容	具体的な対策名	概要	課題	実施場所	出典
気温	病害虫	クワシロカイガラムシのふ化	①病害虫対策	適期防除	ICT によるクワシロカイガラムシの散水適期の把握	<p>【概要】 メッシュ気象データ等を利用し、ほ場別の幼虫ふ化最盛期の予測可能性を検証した。</p> <p>【成果】 ほ場別にそのふ化最盛期が予測でき、その 10 日程度前に、寄生枝のふ化状況をルーペ等で確認することで、散水開始の大幅な遅れは回避できる。</p> <p>出典：『平成 27 年度気候変動適応産地づくり支援事業報告書 ～ICT による茶のクワシロカイガラムシの散水適期の把握～』</p>		鹿児島県	農業温暖化ネット (掲載:2016)

図 5.2-109 で示した適応策の種類の整理結果にもとづき、該当する具体的な対策の概要等に関する情報を表 5.2-109 に示します。

表 5.2-109 適応策の種類の整理結果にもとづく具体的な対策の概要_茶（気温(低温)・収量）

気象要因	影響・被害①	影響・被害②	適応区分	具体的な内容	具体的な対策名	概要	課題	実施場所	出典
気温(低温)	収量	凍霜害	①凍霜害抑制	防霜用機材の利用	防霜施設の導入	<p>【効果に関する評価】 再萌芽した芽が被害にあうことなく、収量品質が確保。</p>	全茶園での設置がほ場条件によって困難。	大分県	平成 27 年地球温暖化影響調査レポート
気温(低温)	収量	凍霜害	①凍霜害抑制	防霜用機材の利用	秋冬期(11-12月)防霜(防霜ファン)	<p>【効果に関する評価】 冬芽の凍霜害を、ほぼ防止できるが、秋冬期に防霜ファンを稼働させることで、電気代のかかり増しが発生。</p>	電気代のかかり増しと被害抑制効果との関係が解明されていない。	宮崎県	平成 27 年地球温暖化影響調査レポート

図 5.2-110 で示した適応策の種類の整理結果にもとづき、該当する具体的な対策の概要等に関する情報を表 5.2-110 に示します。

表 5.2-110 適応策の種類の整理結果にもとづく具体的な対策の概要_茶（気温(低温)・品質）

気象要因	影響・被害①	影響・被害②	適応区分	具体的な内容	具体的な対策名	概要	課題	実施場所	出典
気温（低温）	品質	凍霜害	①凍霜害抑制	防霜用機材の利用	防霜施設の導入	【効果に関する評価】 再萌芽した芽が被害にあうことなく、収量品質が確保。	全茶園での設置がほ場条件によって困難。	大分県	平成 27 年地球温暖化影響調査レポート

図 5.2-111 で示した適応策の種類の整理結果にもとづき、該当する具体的な対策の概要等に関する情報を表 5.2-111 に示します。

表 5.2-111 適応策の種類の整理結果にもとづく具体的な対策の概要_茶（降水・収量）

気象要因	影響・被害①	影響・被害②	適応区分	具体的な内容	具体的な対策名	概要	課題	実施場所	出典
降水	収量	干ばつ（育成不良）	①土壌・施肥管理	肥培管理	茶園の「点滴かん水同時施肥法」による施肥削減とかん水効果	【概要】 点滴かん水施設を利用した液肥施用と夏期干ばつ時のかん水について試験を行った。 【成果】 ・慣行施肥を行っている区では土壌乾燥時（pF=2.3~2.9）に 2t/10a のかん水を行うことで、pF 値の低下がみられた。 ・点滴施肥区では、pF 値は慣行施肥区より高めに推移した。これは点滴施肥区のうち間土壌の水分保持能が低下していたことに起因すると考えられた。 ・点滴施肥区および慣行施肥+かん水区は慣行区と比べて処理当年の秋芽収量に差はなかったが、翌年の一番茶収量は約 10%増収した。 ・慣行施肥栽培区と点滴施肥栽培区の一歩茶荒茶品質について、品質の低下も認められなかった。		佐賀県	農業温暖化ネット (掲載:2014)
降水	収量	干ばつ（育成不良）	②水管理	かん水管理					

図 5.2-112 で示した適応策の種類の整理結果にもとづき、該当する具体的な対策の概要等に関する情報を表 5.2-112 に示します。

表 5.2-112 適応策の種類の整理結果にもとづく具体的な対策の概要_茶（降水(少雨)・収量）

気象要因	影響・被害①	影響・被害②	適応区分	具体的な内容	具体的な対策名	概要	課題	実施場所	出典
降水(少雨)	収量	生育抑制	①水管理	かん水管理	かん水の実施	【効果に関する評価】 夏季の高温干ばつ時にかん水することで三番茶芽の生育抑制を軽減。	県茶園面積 17,400ha の内、給水栓整備済茶園は約 3,200ha (18%)、スプリンクラー設置済茶園は約 630ha (4%) であり、その他茶園は手かん水となるため、かん水作業の省力化が課題	静岡県	平成 29 年地球温暖化影響調査レポート